

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

県内の学校において、がんに関する教育を推進するための支援体制や具体的な取組についての検討及び普及啓発を行うための方策等を関係者が協議した。

1 構成員

全体で8名

(内訳：学識経験者(大学教授)1名、医療関係者(がん専門医・放射線診断部長)1名、がん患者会関係者1名、学校関係者(県PTA連合会副会長、モデル校学校長)3名、モデル校所管市町教育委員会1名、県保健福祉部健康増進課担当係長1名)

No	氏名	所属及び役職	備考
1	日野 克博	学識経験者	愛媛大学教育学部教授
2	山本弥寿子	医療関係者	四国がんセンター医師
3	松本 陽子	がん患者会関係者	おれんじの会
4	梶原 玉男	保護者代表	愛媛県PTA連合会副会長
5	児島 祥之	推進モデル校校長	松前町立北伊予中学校
6	松木 義明	推進モデル校校長	愛媛県立川之江高等学校
7	金子 貴徳	関係市町教育委員会	松前町教育委員会学校教育課
8	田坂慎太郎	行政関係者	県保健福祉部健康増進課

2 開催時期・検討内容

【第1回がん教育推進協議会】オンライン開催

9月24日(火) 13:00～14:30

協議内容

- ・ 令和6年度事業概要について
- ・ 推進モデル校での具体的な進め方について
- ・ 各学校種におけるがん教育の取扱いについて
- ・ がん教育指導参考資料等の活用方法について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・モデル校関係者等 6名】

【第2回がん教育推進協議会】オンライン開催

2月3日(月) 15:00～16:30

協議内容

- ・ 令和6年度事業報告
- ・ がん教育モデル校における実践報告
- ・ 成果と課題
- ・ 学校における今後のがん教育の進め方について
- ・ 各機関との連携について

② 教育委員会としての取組

○ 各学校におけるがん教育の推進に向けて

がん教育推進モデル校（中学校 1 校、高等学校 1 校）において、保健体育科教員と外部講師がチーム・ティーチングを行う様子を公開し、県下各校種からの参加者にモデルプランを示した。

さらに、中学校＋1 校において、国が作成しているモジュール資料等既存資料の活用と、関係機関との連携に視点を絞った研究を進め、日本女子体育大学 横嶋 剛 教授に助言をいただきながら、効果的な活用・連携について研究を深めた。

また、各学校における、より積極的ながん教育の展開へとつなげるため、推進モデル校における取組をまとめたリーフレットを作成し、県内の中学校と高等学校（特別支援学校含む）に配付した。

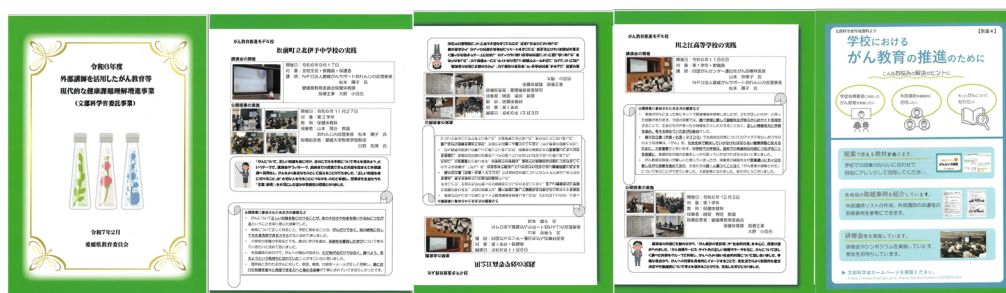
○ 教育活動全体におけるがん教育に向けて

専門医、がん患者会関係者等と連携したがん教育を進める中で、文部科学省や県が作成した資料の活用方法や、効果的な提示の方法等について協議し、公開授業等を通してモデルプランを提案した。

また、公開授業後の研究協議において、保健体育科以外の取組や地域・保護者との連携等について参加者と情報交換を行い、教育活動全体におけるがん教育へとつなげた。

○ リーフレットの作成

推進モデル校における講演会や授業の様子、生徒の感想等をまとめたリーフレットを作成し、県内の中学校、高等学校（特別支援学校含む）に配付した。



保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健福祉部や四国がんセンター、がん患者会と連携し、外部講師の育成や研修会の開催などについて協議した。

また、保健福祉部主催のがん協議会にオブザーザーとして参加し、外部講師と連携した取組について理解を深めるとともに、県内におけるがん教育の現状と今後の課題や方向性について伝える場となった。

（2）がん教育推進モデル校における取組

【松前町立北伊予中学校】

講演会

打合せ	令和6年9月11日（水）オンライン開催
開催日	令和6年9月17日（火）
対 象	全校生徒、教職員
講 師	NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏

公開授業

開催日	令和6年11月27日（水）
学年・組	第2学年
教科	保健体育科・保健分野
授業内容	がんについての正しい知識を身に付け、自分にできる予防について考えを深めよう。
授業者	保健体育科 教諭 山本 理沙 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



【愛媛県立川之江高等学校】

講演会

打合せ	令和6年10月 2日（水）オンライン開催
開催日	令和6年11月 6日（水）
対象	第1学年、教職員
講師	四国がんセンター遺伝性がん診療科 山本 弥寿子 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏

公開授業

開催日	令和6年12月 3日（火）
学年・組	第1学年
教科	保健体育科・科目保健
授業内容	がん患者への理解と共生
授業者	保健体育科 教諭 越智 秀明
指導助言	愛媛県教育委員会保健体育課指導主事 大野 小百合



2. 事業の達成度について

[指導参考資料活用における成果]

- ・ 文部科学省や県が作成した参考資料を活用することで、科学的な根拠や情報に基づく基本的な内容や共通内容を具体的に示すことができるため、各学校で取り組みやすくなり、がん教育の普及啓発ができた。モデル校のがん教育授業前と授業後におけるアンケートにおいて、生徒のがんに対する誤答・無答の割合が26.9%から7.1%に減少していることから正しい知識を身に付けることができたといえる。

[外部指導者の活用における成果]

- ・ 医療関係者とがん患者会関係者の協力を得て、モデル校において、がんセンター医師及びがん経験者の2名を講師とした講演会を開催し、推進モデル校の希望する内容について双方で系統性のある講演会を実施できた。また、講演を行ったがん経験者が、その後の授業の外部講師となり、知識と生活をつなげる役割を担うことができたため、モデル校のがん教育授業前と授業後におけるアンケートにおいて、生活習慣の改善の意識（18ポイント増）、やがん検診への意識（43.5ポイント増）の向上が見られた。

[がん教育推進体制における成果]

- ・ 関係機関等（がん診療連携拠点病院、がん患者会、保健福祉部）との連携により、多面的ながん教育を推進することができた。
- ・ 「がん教育推進モデル校」における公開授業後の研究協議の中に、外部講師の講話や質疑応答の時間を設定し、参加者の研修の機会を確保できた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ がん教育の必要性等の意識啓発、学校における系統的な指導の充実を図るため、引き続き、教職員を対象とした研修を行う。なお、研修会の開催方法は、大人数による参集型の一斉研修会以外にも、各地区別や校種別等、状況に応じてより実践につながる方法を検討していきたい。
- ・ リーフレットや研修会等を通して、推進モデル校が実践した具体的事例を普及啓発し、各学校が取り組みやすいがん教育のモデルプランの提示を行っていきたい。
- ・ 家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、治療中の生徒等への具体的な配慮例について紹介することで、各校における「実態に応じた取組」に繋げ、教師も生徒も安心して授業を進めることができるよう研修の充実を図る。
- ・ 外部講師の積極的な活用につながる体制を整備していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師を活用した授業実践

推進モデル校においては「先進的な実践」を重ねることができているが、それを県下各学校へ広げることができているかと問われると大変厳しい状況であり、そのことは、国のアンケート調査の数値にも表れている。文部科学省の研修会での「全ての中学校、高等学校でがん教育は行われている。これからは『がん教育の質の向上』が求められている。」という言葉通り、国の資料等を効果的に活用し、外部講師と連携した授業モデルを、各学校の「実践」へとつなげ、質の向上を図る工夫をしていきたいと考えている。

系統的ながん教育の実施

小学校の「病気の予防」、中学校の「健康な生活と疾病の予防」、高等学校の「現代社会と健康」の中で取り扱う生活習慣病やがんについて、他校種の学習内容等を意識しながら系統的に取り組むことができるよう公開授業等において啓発していきたい。